

看護部通信

2014. 1. 1発行 第40号

#IOSPY ホスピーグループ腎透析事業部看護部

新年のご挨拶

腎透析事業部統括看護部長：岡山ミサ子

昨年からホスピーグループ腎透析事業部看護部がスタートしました。一番大きな活動は、精神看護専門看護師(リエゾンナース)の長江美代子氏を招いて“いのちのケア事例検討会”を行ったことです。各施設で事例検討会を行い、他の施設の人も含め、延べ446人が事例検討会に参加しました。事例検討会は、看護を通して施設間の交流や学び合いの場づくりになったと思います。

【2014年度のキーワード】

- ①患者・家族の“いのちのケア”
- ②新人看護師・スタッフ・管理者の育成とメンタルケアの“サポート”体制
- ③2014年度は診療報酬改定や高齢者問題などの対する“アイデア”（創意・工夫）
みんなで知恵を出し合い、良い一年になりますよう宜しくお願い致します。

はじめての透析看護の体験 “看護学生の見学・実習”

新生会第一病院には津島市立看護専門学校、東海クリニックには知多市立看護専門学校の学生が見学実習に訪れ、初めての透析看護の見学実習をしました。

津島市立看護専門学校 見学・実習

（新生会第一病院
看護部長 宮下 美子）

- ①日程：2013年12月16日（月）
- ②対象：看護学生2年生28名・教員2名
- ③場所：新生会第一病院
- ④内容

- ・院内見学
- ・腎不全患者の看護
- ・治療法の紹介
- ・血液透析を受ける患者の看護
- ・透析患者から学ぶ
- ・患者理解とセルフケア支援

「看護師が正しい知識や支援をしていくことが大切で患者のセルフケア促進に繋がる」
「患者指導の講義は難しかったけれど今後臨床に出た時役立てたい」

「元気な透析患者を初めて見た」
「病気が人の心に与える影響の大きさを知った」
「腎不全看護は家族の支援も大切」

患者理解とセルフケア支援



家庭透析患者と家族から学ぶ



知多市立看護専門学校 見学・実習（東海クリニック 看護師長 永尾 洋子）

- ①日程：2013年10月22日（火）
- ②対象：看護学生2年生30名・教員2名
- ③場所：東海クリニック
- ④内容

- ・透析の現状と透析看護の説明
- ・透析室の見学と特徴の説明
- ・透析患者の体験談を傾聴
- ・透析看護の実際（4事例を紹介）



・学生は、透析中の患者の話に熱心に耳を傾けていました。
・学生のレポートには穿刺や食事管理の苦痛を受け止め、寄り添う看護の重要性が記載されていました。

実際、シャント音を聞いているところ

患者指導に役立つ“P(リン)とK(カリウム)”の指導

新生会第一病院 臨床栄養科 平賀恵子

透析患者の血中のリン濃度とカリウム濃度を適正に管理する目的は、合併症の予防にあり、それぞれの合併症と適正值、値の変動に及ぼす因子を理解し、患者指導にあたる必要があります。PとKは、透析で除去され、次の透析までの食事摂取することにより再び体内に蓄積されるという状態を繰り返しています。血中濃度を適正に管理するには、食事からの摂取量を適正に保つこと、十分な透析量、適正な薬物療法と服薬により十分な除去を行うことが重要です。ここでは食事での管理のポイントについて説明します。



【Pの指導】

- * たんぱく質食品(肉類、魚介類、卵類、乳製品類、大豆製品類) 雑穀類(玄米、そば、麦など)、種実類(ごま、ピーナッツ、アーモンド、栗など)、豆類(大豆、納豆、きなこなど)、加工食品(ハム、ウインナー、ちくわ、はんぺん、プロセスチーズ、菓子パンなど)に多く含まれます。
- * 加工食品の中にはリン酸塩という食品添加物が含まれているものがあります。
- * 肉や魚など原材料に由来するリン(有機リン)の腸管での吸収率が10~40%程度であるのに比べ、食品添加物であるリン酸塩(無機リン)の吸収率は約90%であり、血中リン濃度が上昇しやすいため、これらの食品の利用は極力避けることが大切です。

【有機リン】



10~40%が
吸収される

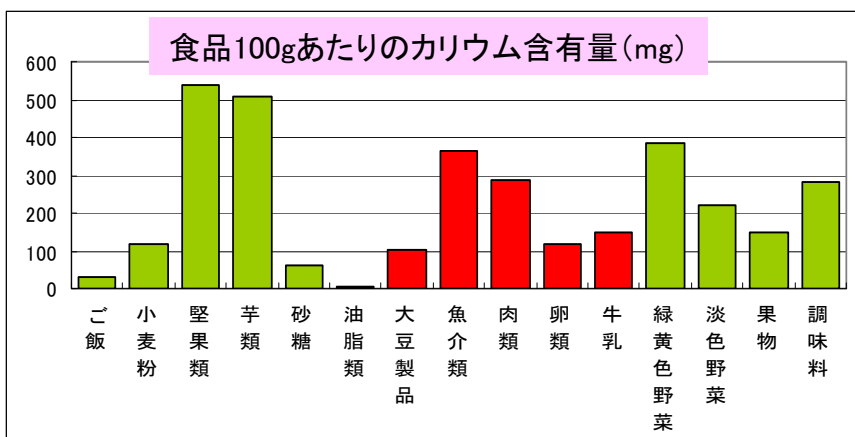
【無機リン】



約90%が吸収される

【Kの指導】

- * 血清K値は、高値だけでなく低値にも注意が必要です(とくに透析後)。
- * 芋類、野菜類、果物類、種実類(堅果類)、豆類、海藻類、きのこ類、嗜好飲料といったK含有量の多い食品を摂取し、K値を上げることで心不全のリスクを下げることができます。
- * グラフの赤色に示すように、たんぱく質食品もカリウムの大切な補給源です。
- * 低K血症の背景には、食事摂取不良や栄養障害が潜んでいることが、よくみられます。
- * どのような食品をどのくらい補給すればよいのか、適切な指導が必要となります。
- * 透析歴の長い患者ではK値はとにかく低いほうがよいと理解されている方もみえますので、管理の必要性について十分な説明が必要なこともあります。



【指導上の注意】

PとKともに過剰摂取には十分な注意が必要ですが、それぞれ、良質なたんぱく質や脂肪酸、鉄や亜鉛などの微量元素、食物繊維やビタミン類といった体に必要な栄養成分の補給源でもあるため、過度な制限には注意が必要です。また患者個々の栄養状態や食習慣に合わせた適切な補給が重要ですので、具体的な分量や食べ方(レシピ)については担当の管理栄養士に相談してみてください。

また、初めに述べたように、PとKの管理に影響するものは食事だけではありません。透析医療においては、看護師、薬剤師、臨床工学技士などの専門職が、それぞれのスキルを活かし情報を共有することで、透析患者の良好な透析生活を支援していくことが求められます。チームで患者さんを支えていきましょう!



運動機能評価入院の紹介



新生会第一病院 リハビリテーション科 久野 義直

新生会第一病院では昨年の7月より運動機能評価入院を行っております。ここで運動機能評価入院のメリットについて説明します。病院やクリニックの患者が通院する際や透析ベッドの移乗動作など、見ていてどこも不安に感じる事があると思います。しかし、専門的な助言ができないという理由などでなんとなく見過ごしていることはありませんか？そのような患者が転倒により骨折し入院となり、再び通院透析した際には、以前よりも動きが悪化していた経験があると思います。そんな時『あの時もう少し何かしていれば』とか『自分にも何かできる事があったのではないかと』と思い、残念な気持ちになるのではないのでしょうか。

【内容】

1. 運動機能評価の結果から身体的、認知的分析を行い患者の現状を把握して一人一人にあった運動プログラムを作成します
2. 実際に運動を行い退院後も患者が継続して運動できるよう指導します
3. 評価や指導した内容を各透析施設に伝えますので患者の状態が数値的かつ継続的に理解できます
4. 入院中は評価だけでなく、自宅のお風呂やトイレあるいは病院内で、不安な動作に対し安全に行える方法や補助具による介入も検討します
5. 入院中に栄養指導も行います

【対象】

1. 転倒の危険性がある患者
2. 脳梗塞で身体に違和感があるがリハビリをしていないというような患者
3. 身の回りの事は自分でやっているが透析以外は外出する事がない患者
4. ドライウェイトが減少している患者

* 健康診断の運動版だと思って自分の運動機能を正確に評価してみるのも良い機会ではないかと思えます。

【メッセージ】

透析患者は年々高齢化しています。それに伴い介助が必要な人も増え続けているのが現状であり今後の課題でもあります。高齢者が一度失った機能を取り戻すには困難な事が多いです。なぜなら身体は老化し続けているからです。それを少しでも食い止め現状維持や遅延させるには透析、運動、栄養どれも欠かすことのできない要素です。それらをバランスよく行う事が重要だと私たちは考えています。それには患者と接しているみなさんの協力が必要です。患者の10年先、20年先をとともに考えて行きましょう。



理学療法士・作業療法士・言語聴覚士
【私たちが運動機能評価を行います】



いのちのケア シリーズ6

東海・東海知多クリニックでトイプードルを飼っている看護師6人の「家の子自慢」です



舟井(リボンちゃん)
我が家の次女、とても人懐っこい(男子が好き)犬！

家に帰るとこの子達が真っ先にお出迎えしてくれます。その愛くるしいぐさ・表情に一日の疲れが吹き飛び、癒されて明日も頑張ろうという気持ちになります

東海知多クリニック
有本 美津代



山口(リンク君)

可愛くてたまらない！丸まるの目で私をジーッと見つめてくるのがメチャメチャ可愛い！



小山内 (コロン君・こう君)

丸まるの目で私をジーッと見つめてくるのがメチャメチャ可愛い！



牧野(ロコちゃん・モカ君)
ロコはやんちゃで、モカはおとなしいです。



永尾(モコ君)
控えめな男子



有本(けんた君)
とても頭のいい、優しい長男です。